

大変お世話になっております。夏期開催の展覧会についてお知らせいたします。
展覧会告知等のご協力をいただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

小海町高原美術館 館長 前島孝一

よこい てるこ
 展覧会名 画業70年 **横井照子展** — スイスで描く日本の詩 —
 会期 **2015年6月20日[土] — 8月23日[日]**
 会場 **小海町高原美術館**

- 休館日＝火曜日(8月4日、8月11日は開館)
- 開館時間＝9:00 — 17:00(最終入館16:30)
- 入館料＝高校生以上:500円/小中学生:150円
- 主催＝小海町高原美術館/横井照子ひなげし美術館
- 後援＝スイス大使館/長野県教育委員会スイス大使館/長野県/長野県教育委員会/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/NBS長野放送/TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/FM長野/ハケ岳ミュージアム・リング
- 特別協賛＝株式会社恵那川上屋/株式会社信州里の菓工房/株式会社里の菓工房

横井照子は1924年愛知県津島市に生まれ、油彩・テンペラ・リトグラフなどによる季節の情景や草花など自然をテーマにした色彩豊かな作品が特徴の画家です。

1959年画家サム・フランシスと結婚し、1960年36歳の時にパリへ移住、活動の場をヨーロッパに移しました。1991年にはスイス国籍、ベルン市民権を得て積極的に作品を発表。現在もベルンに在住し、91歳を迎えてもなお活発に制作活動を行っています。スイスでは国民的画家として認められ、近年はエッグテンペラの作品により、世界中のファンを魅了し続けています。

これまで90回以上の個展開催をはじめ、雑誌『文芸春秋』や『婦人之友』の装丁、菓子のパッケージといった商業デザインも手掛けるなど幅広い活躍により、美術界では確固たる地位を確立しています。

本展は、横井照子の70年にわたる初期作品から現在までの油彩・エッグテンペラ・リトグラフなど約70点を一堂に集め、画家としての軌跡を振り返ります。岐阜県恵那市の「横井照子ひなげし美術館」の協力により、初めての大規模な横井照子の回顧展となります。

関連行事

- ◎オープニングレセプション
6月20日(土) 14:00～
横井照子氏は出席しません。

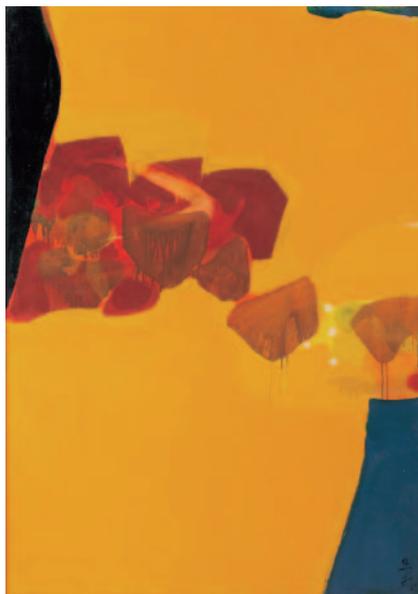
お問い合わせ先

 **小海町高原美術館**

担当学芸員:中嶋
 〒384-1103
 長野県南佐久郡小海町豊里5918-2
 TEL.0267-93-2133 FAX.0267-91-3011

E-mail:nakazima-minoru@koumi-town.jp
 ホームページ:
<http://www.koumi-town.jp/museum/>
<https://www.facebook.com/koumimuseum>

作品のご紹介



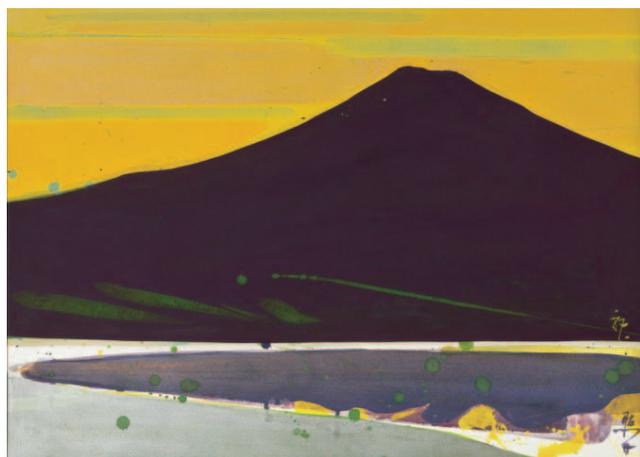
2



1



3



6



5



4

- 1. 《Morning Blue》1957年 油彩 1169×912mm
- 2. 《Chrysanthemenduft II》1969年 油彩 1160×810mm
- 3. 《幸せ》1994年 エッグテンペラ 620×437mm (4 枚組)
- 4. 《月見草》2003年 エッグテンペラ 620×273mm
- 5. 《朝涼》2004年 エッグテンペラ 625×283mm
- 6. 《富士山》1987年 エッグテンペラ 501×681mm